

KYORITSU WOMEN'S UNIVERSITY
KYORITSU WOMEN'S JUNIOR COLLEGE



INTERNATIONAL
STUDENT
PASSPORT

STUDENT

もう自分
への挑戦
今日から
始まります。

ご家族の皆様へ

あえて「手出し」をしないという**支援のカタチ**

学生が「留学に行きたい」と考え始めた今、ご家族の皆様を知っておいいただきたいことがあります。それは、留学の成功は「日本にいる間の準備」が土台となるということです。

1

なぜ、大学はあえて「学生本人」にしか案内しないのか？

周囲のサポートを受けることは大切ですが、準備をすべて周囲に任せるよりも、自ら試行錯誤しながら留学準備を進めた学生のほうが、現地で主体的に学ぼうとする姿勢や高い吸収力につながります。

「自分で解決する練習」を日本で始める

書類の書き方やビザの申請など、日本にいるうちに「自分で調べ、適切な窓口に関わり合わせ、解決する」経験を積ませてください。

「当事者意識」が学びの質を変える

周囲の全面的な支援を受けて自分で判断をせずに留学をした学生と、苦労しながらも自分で情報を掘み着実に準備を進めて留学を開始した学生では、現地での吸収力や意欲が格段に違います。

2

ご家族の皆様をお願いしたい「サポート」

「手続き」は本人に任せていただきたいのですが、ご家族の皆様にはできない、そして最も重要な役割が2つあります。

【経済的なバックアップ】

留学には、授業料、渡航費、そして現地での生活費など多額の費用がかかります。これは、学生一人の力ではどうしても限界があります。「手続きや交渉は自分でやる。その代わり、資金面でのサポートは親が引き受ける」という明確な役割分担を、ぜひ学生と話し合ってください。

【「報告」を受ける役割】

ご家族の皆様は「指示を出す人」ではなく、学生の「プレゼンを受ける相手」になってください。「どこに行くのか」「なぜその国なのか」「いつ、いくら必要なのか」を、学生の口から説明させてください。

3

準備段階でのチェックリスト（見守りのコツ）

ご家族の皆様は、以下のことを学生に問いかけてみてください。

「資料にはどう書いてある？」

本人に関連資料を読み込ませ、ご家族の皆様へ解説してもらうようにしてください。留学先や大使館など、適切な窓口がどこかを判断する力と同様に、自ら情報を読み解く力も留学を支える大きな力になります。

「留学先の大学には相談した？」

学生の役割を奪わず、まずは本人に直接確認をさせてみてください。現地の大学や大使館など、どこに相談すべきかを自分で見極める経験こそが、将来に生きる主体性を育みます。

「トラブルが起きたらどこに連絡すればいい？」

本人に危機管理のフローを認識させるようにしてください。

Parent

留学、海外研修参加中の危機管理体制について(J-TAS)

本学の留学規程による長期留学や、国際交流センターが主催する海外研修に学生がご参加される場合、公益財団法人日本国際教育支援協会が提供する大学指定の学研災付帯海外留学保険に加入いただくことになります。その際に、本学ではJ-TASという危機管理システムに加入しております。留学先でのトラブルや心身の健康面の相談まで、24時間365日受け付けておりますので、ご本人やご家族の皆様からご不安な点は直接、J-TASにお問い合わせいただける仕組みがございます。



ご家族の皆様へのメッセージ

自分で調べて、悩み、行動する学生の姿を、どうかあたたかく見守ってください。自分の力で手続きを完遂し、支援をいただいたご家族の皆様への感謝の気持ちを持って出発する。そのプロセス自体が、素晴らしい「留学の成果」の一部となります。「可愛い子には旅をさせよ」と言いますが、旅は、留学を視野に入れた日から始まっています。学生たちが未知の世界で得た経験は、一生の宝物となるはずです。私たち国際交流センターの職員も、ご家族の皆様と同じ想いで、学生たちの挑戦を全力で応援してまいります。彼女たちの大きな成長を、共に楽しみに見守っていきましょう。

お問い合わせ先

共立女子大学・共立女子短期大学 国際交流センター

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-1 2号館 5F

開室時間 月曜日～金曜日 09:00～17:00

土曜日 09:00～12:30



03-3237-2789



koryu@kyoritsu-wu.ac.jp